

# 通訳案内士を巡る環境変化について

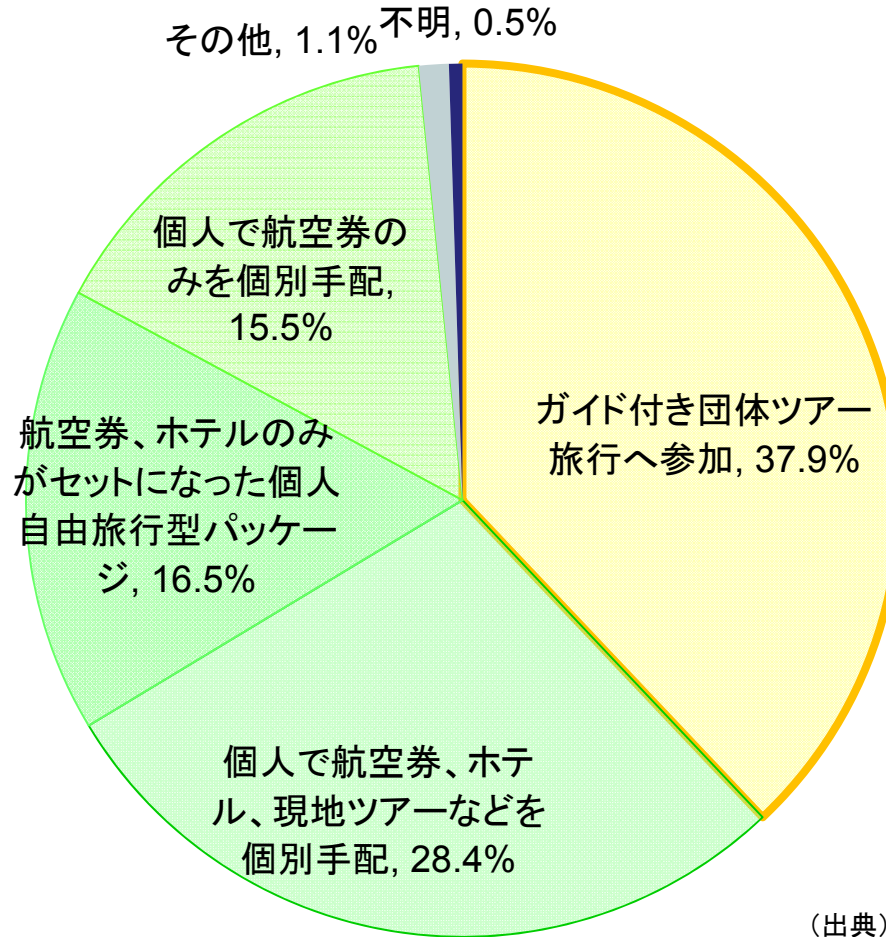
平成22年2月

観光庁観光資源課

# 通訳案内士の意義

- 訪日外国人観光客の4割はガイド付きの団体ツアーに参加している。
- 引き続き、日本と外国の相互理解・交流において通訳案内士に求められている期待は大きい。

訪日外国人観光客の訪日旅行形態(2008年)

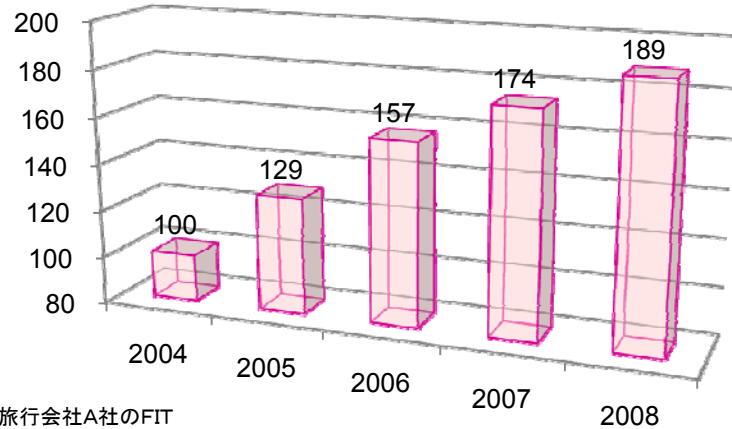


(出典)JNTO訪日外客訪問地調査2007/2008

# 訪日外国人旅行者の旅行形態の変化

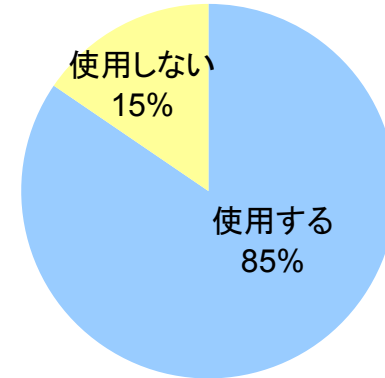
一般的に団体旅行からFITに移行。個人旅行者のニーズは多様であり、その多くは情報端末から情報収集が可能。

FIT取扱人数(指数)の推移(2004年の取扱人数を100とする)



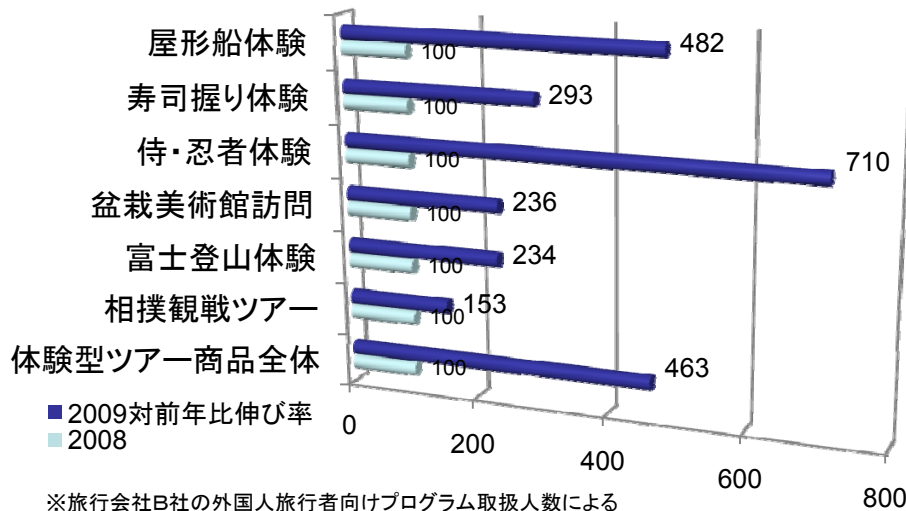
※旅行会社A社のFIT  
(9人以下の外国人旅行者)取扱回数による

TIC利用外国人旅行者の通信機器の使用有無



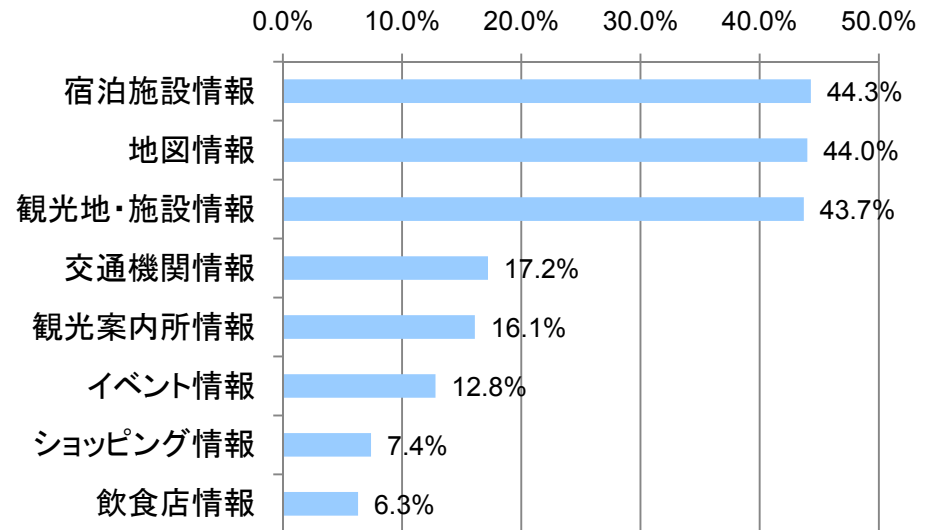
出典:「TIC利用外国人旅行者の訪日旅行動向調査」(JNTO)

外国人FIT旅行者向けプログラムの取扱人数の伸び率  
(2008年の取扱人数を100とする)



※旅行会社B社の外国人旅行者向けプログラム取扱人数による

通信機器で収集したい情報(3つまで回答)

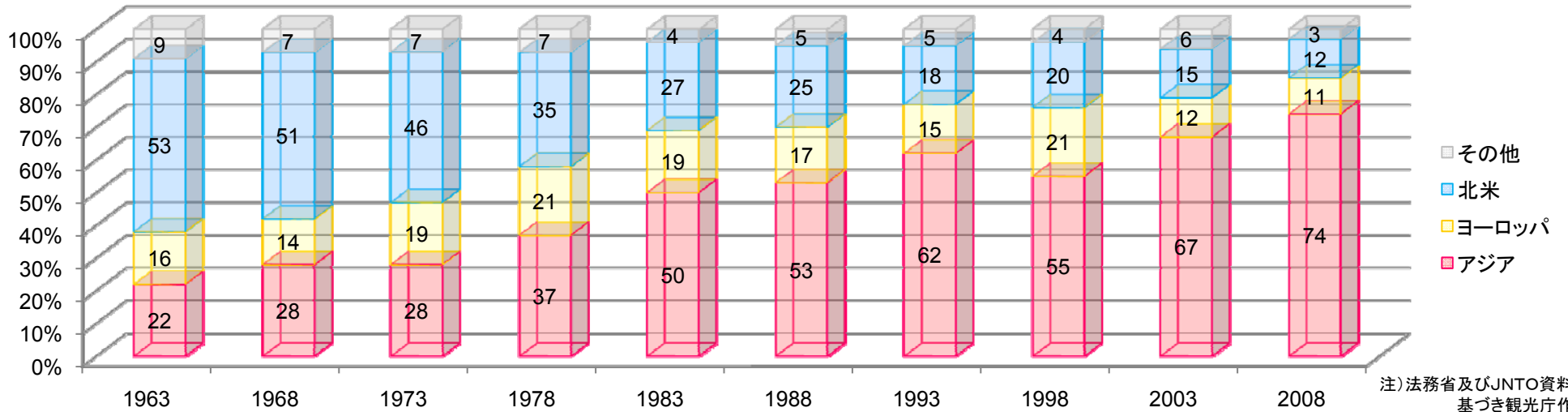


出典:「TIC利用外国人旅行者の訪日旅行動向調査」(JNTO)

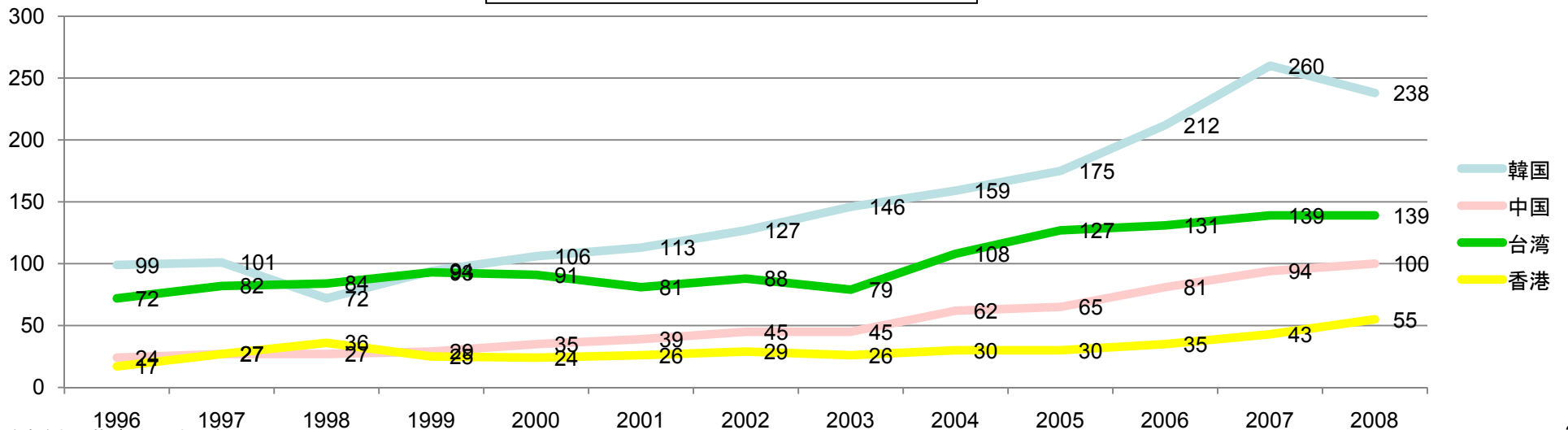
# アジアからの旅行者の増加

アジアからの旅行者数は近年増加が顕著

地域別訪日外国人旅行者の割合の推移

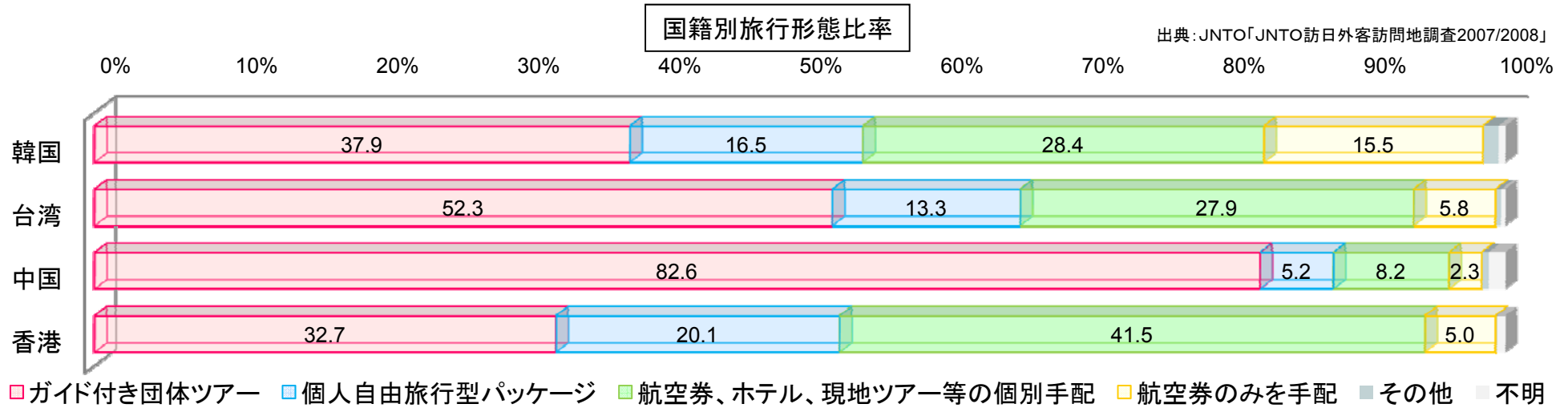


アジアからの訪日外国人旅行者数の推移



# アジアからの訪日旅行者の動向

韓国や香港はFIT化が進んでいる一方、中国・台湾は団体ツアー型旅行が多い



訪日動機はショッピング、日本食、温泉に重点が置かれている

観光客の訪日動機とリピーター率

出典：JNTO「JNTO訪日外客訪問地調査2007/2008」

	訪日動機1位	訪日動機2位	訪日動機3位	訪日動機4位	訪日動機5位	リピーター率
韓国	温泉 (41.1%)	日本食 (38.4%)	ショッピング (36.8%)	繁華街の街歩き (22.9%)	ファッション (19.7%)	50.9%
台湾	ショッピング (41.0%)	温泉 (36.0%)	自然景観 (34.6%)	日本食 (34.0%)	歴史的建造物の見学 (26.9%)	72.1%
中国	ショッピング (50.9%)	温泉 (39.7%)	歴史的建造物の見学 (25.3%)	自然景観 (24.4%)	日本食 (23.0%)	13.4%
香港	ショッピング (60.0%)	日本食 (50.6%)	温泉 (34.2%)	ファッション (32.5%)	自然景観 (27.7%)	79.0%
【参考】 英独仏	歴史的建造物の見学 (65.3%)	日本食 (37.6%)	伝統文化・工芸体験 (33.3%)	ショッピング (15.8%)	日本人とのふれあい (15.5%)	20.6%

※訪日動機は3つまで回答 ※リピーター率：観光で訪日経験2回以上

# 日本国内におけるアジア言語対応可能者(留学生・在住外国人)

通訳案内士以外にアジア言語の話し手として、  
国内にはアジアからの留学生や在日アジア人、中国語・ハングル語検定合格者等が相当数在住

	中国	韓国
留学生数 (平成21年度)	79,082人	19,605人
外国人登録者数 (平成20年)	655,377人	589,239人
SGG団体数	53団体 (中国語)	34団体 (韓国語)

※留学生数: (独)日本学生支援機構HPより作成  
 ※外国人登録者数: 法務省入国管理局HPより作成  
 ※SGG団体数: (独)国際観光振興機構(JNTO)資料より作成

中国語検定	累計合格者数 (2009年11月実施分まで)
1級	115
準1級	4,238
2級	21,379

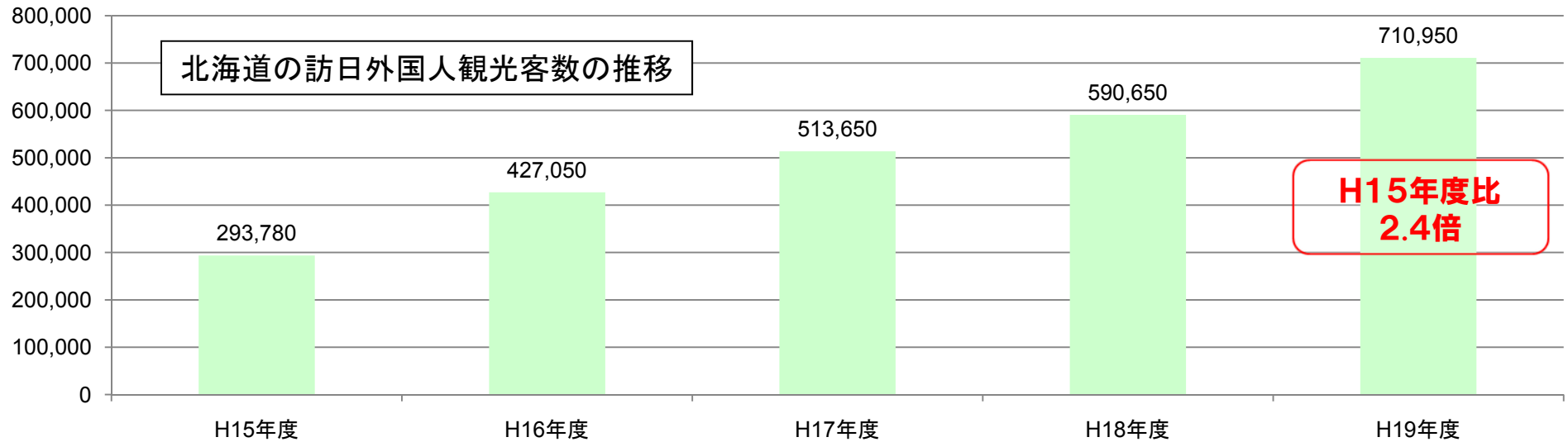
ハングル能力検定	累計合格者数 (2009年11月実施分まで)
1級	233
2級	1,621
準2級	8,406

※(財)日本中国語検定資料より作成

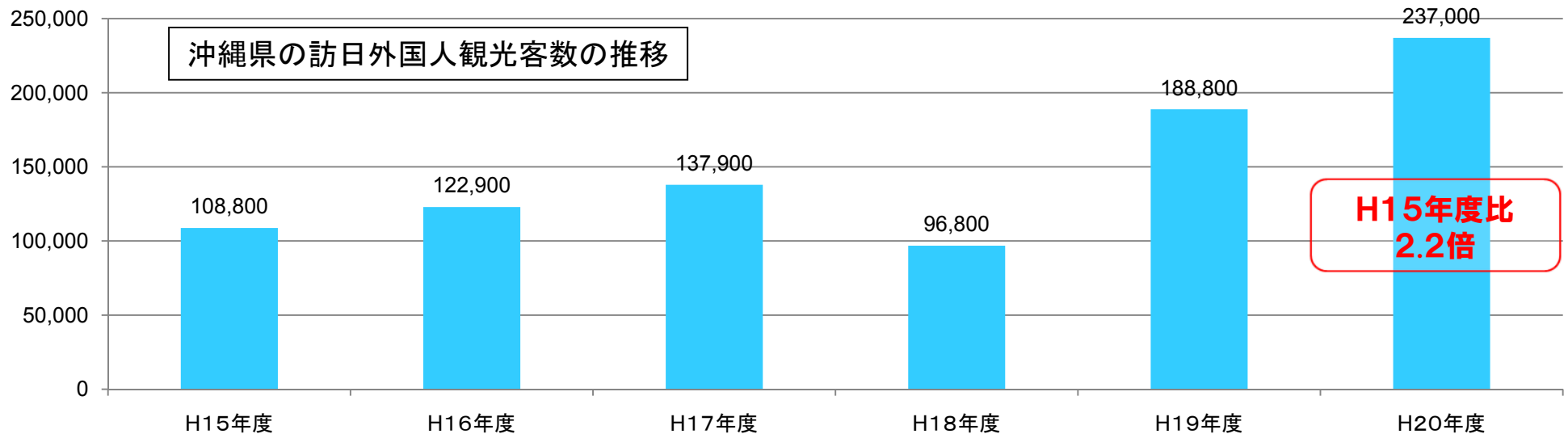
※NPO法人ハングル能力検定協会HPより作成

# 地域への外国人観光客の入込状況

近年、インバウンドが大幅に増加している地域が存在



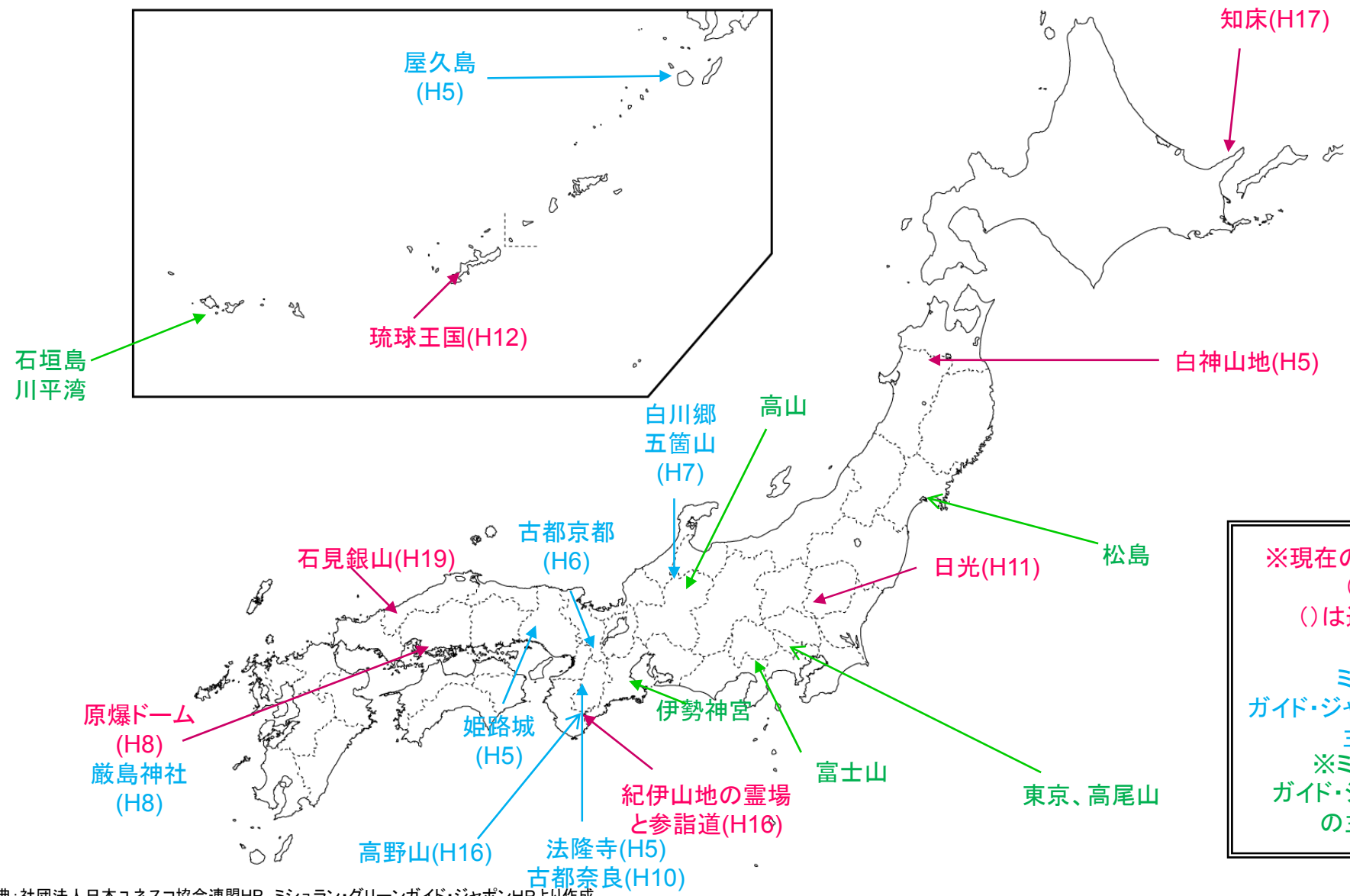
※北海道経済部観光のくにつくり推進局資料より作成



※沖縄県観光要覧より作成

# 地域におけるインバウンドの状況

世界から評価されている観光資源が地方部にも増加



※現在の日本の世界遺産  
(2008年7月現在)  
( )は遺産登録された年  
※世界遺産かつ  
ミシュラン・グリーン  
ガイド・ジャポン2009掲載の  
主な三ツ星観光地  
※ミシュラン・グリーン  
ガイド・ジャポン2009掲載  
の主な三ツ星観光地

出典: 社団法人日本ユネスコ協会連盟HP、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンHPより作成



# 地域でのガイドニーズ①

一定の語学能力を有し、観光地の地域特性に応じた専門性の高い有償ガイドを地域が独自に育成・活用できる制度へのニーズがある。

## 1) 熊野古道の場合

- 熊野古道は和歌山県・三重県・奈良県にまたがる世界遺産。
- 現在は地域のボランティアガイド(10名程度・英語)が外国人を案内。
- 通訳案内士資格は以下の理由で活用しづらい。
  - 1) 語学試験が難しすぎる。
  - 2) 熊野地方以外の知識は必要ない。
  - 3) ホスピタリティや歩き方等通訳案内士試験では問われないガイド技術が必要。
- ボランティアのため、研修やガイドブックの作成等、おもてなしの質をあげる取組みが困難。
- 地域特性に応じたガイドを地域で活用できる仕組みが必要。



## 2) 高野山の場合

- 高野山は世界遺産であり、ミシュランの3つ星観光地にも選ばれている。
- 高野山のガイドにあたっては、高野山や仏教に関する深い理解と知識が必要
  - 例) 伝統的な日本の仏教の説明
  - 真言密教の意味
  - 法要の意味
  - 宗教を支える様々な環境
- 地域特性に応じたガイドを地域で活用できる仕組みが必要



## 3) 岐阜県高山市の場合

- 高山市は外国人観光客が増加しているものの通訳案内士がいない。
- 地域のおもてなし力の向上のため、高山市限定ガイドを育成できる制度が必要。



## 4) 東京都台東区の場合

- ボランティアガイドが外国人観光客に対応しているものの無償であるため、質の向上も含め活用に限界。
- 台東区限定ガイドを設定し、質のいいガイドを区として提供できる体制が必要。



## 5) 日本エコツーリズム協会の場合

- 富士登山等、日本で自然体験・エコツアーに参加する外国人観光客が出現。
- しかし、地域のエコツアーガイドは外国人観光客に案内をすることができない。通訳案内士も自然や環境に関する知識、案内技術等を持っていない。
- 地域のエコツアーガイドが外国人観光客に有償でガイドができる仕組みが必要。



# 地域でのガイドニーズ②

府県を越えた広域地域案内が行える有償ガイドを  
地域への訪日外国人旅行者の状況に応じて、地域の判断で柔軟に育成・活用できる制度へのニーズがある。

## 6) 関西の場合

- 訪日外国人旅行者は一府県のみを訪れるのではなく、複数府県に訪問。
- 府県越えた関西ブロック全般の案内が行える有償ガイドが必要。
- 試験科目・方法、ガイドの登録方法等について地域で自由に設定できる制度が必要。



## 7) 九州の場合

- 訪日外国人旅行者は県境を越えて周遊。
- 九州では特に東アジアからの観光客が増加。
- 九州全域を対象とした地域限定通訳ガイドや、ガイドアシスタントが必要。
- 地域の実情に合わせて、自由にガイドを設定・活用できる仕組みが必要。



# 通訳案内士制度改正の論点

## 環境変化

- (1)ピンポイントのガイドニーズへの対応
- (2)中国語・韓国語ガイドの増加が緊急に必要
- (3)地域でのガイド育成・活用による地域の雇用創出・活性化
- (4)政府の訪日外国人旅行者数に関する目標の前倒し(3000万人)

## 論

### 論点①

○FITの増加によるピンポイントガイドニーズ等への対応はどうすべきか？  
→留学生やボランティアガイドは担い手になれるのか

### 論点②

- 増加するアジア人旅行者への対応はどうすべきか？  
→現行の通訳案内士だけで対応できるのか
- 悪質ガイドへの対応をどうすべきか？  
→有効かつ効率的な方策は考えられないか

### 論点③

○地方でのガイドニーズはどう対応すべきか？  
→現行の地域限定通訳案内士制度で対応できるのか  
→地方が求めているガイド制度が必要ではないか

### 論点④

○通訳案内士の職業の魅力向上、質の向上のためには何をすべきか？  
→試験内容や研修制度を見直すべきか  
→旅行者が希望するガイドを見つけ易くしガイドが旅行者にPRできるようなマッチングを円滑にする方策はないか  
→特に新人が仕事を見つけにくい状況を改善する方策はないか

## 点